

武井彩佳 氏

博士(文学)学位請求論文

The Jewish People as the Heir : The Jewish Successor Organisations (JRSO, JTC, French Branch) and the Postwar Jewish Communities in Germany.

[相続人としてのユダヤ民族：ユダヤ継承組織 (JRSO, JTC, French Branch) と戦後ドイツ・ユダヤ人コミュニティ]

審査報告要旨

1. 論文の概要

本論文は、第二次世界大戦後の米軍占領地区を中心とした西ドイツにおけるユダヤ人財産の継承問題を多数の一次史料を用いて解明し、そのことを通して大戦後まもない時期の世界におけるユダヤ人の動向や、西ドイツにおけるユダヤ人コミュニティ再建の過程を考察した研究である。ナチ政権下で生き延びたドイツのユダヤ人はごく少数で、しかもその多くはキリスト教徒と結婚していた人たちだった。一方、戦争で居場所を失ったユダヤ人たち(いわゆるDP)が東方から流入し、その多くはパレスチナに渡ったものの、一部は西ドイツにとどまる。これら生き延びたユダヤ人と残留DPとがユダヤ・コミュニティを再建する中心となり、戦前のコミュニティの継承者たることを論拠としてナチ政権下で死亡した在独ユダヤ人たちの遺産を継承する権利を主張した。これに対して、アメリカやパレスチナなどのユダヤ人組織は、戦前のコミュニティとの連続性を否定し、世界における全体としてのユダヤ人が継承権を持つと主張した。最終的には後者の主張が米軍占領当局によって認められ、国際的なユダヤ人組織が遺産や補償金の受け取り機関となるが、在独ドイツ人のコミュニティもその中から一定の配分を受けて西ドイツにおけるユダヤ人コミュニティの基盤が固められていく。米軍占領地区を中心として展開された以上のようなプロセスが基本的には同様の形で英・仏占領地区でも見られたのであり、本論文はそのことにも言及している。

2. 論文の評価

本論文は、以下の点で高く評価できる。

a. イスラエルのシオニスト中央文書館をはじめ、米・英・独・仏の文書館等の未刊行史料を広く渉猟し、国際的水準を満たした実証的な研究となっている。それらの史料の中には、論者が初めて注目したものも少なくなく、また、このテーマを扱ううえで重要な位置を占める当事者にインタビューを行って証言を得ているのも貴重な成果である。

b. 戦後のドイツが「過去」とどう取り組んできたかという問題については多くの研究がなされているが、被害者についての研究はまだ少なく、ユダヤ人史の分野でもホロコースト後のドイツについての研究はまだ乏しい。そのような研究状況の下で、本論文は先駆的な意味を持つ。

c. 遺産の継承権問題という一見限られた問題に焦点を絞りながら、本論文は、戦後のユダヤ人社会の中でシオニズムが主流としての位置を占めていく状況を照らし出すことに成功している。

d. とくに「結論」の部分で、在独ユダヤ人、国際ユダヤ人社会、西ドイツ政府、イスラエル、連合国などの間の関係について、説得力のある見取り図を提示しているように、多角的な関係の中で問題をとらえている点も大きなメリットである。

一方、高い水準の研究ではあるものの、以下の点についてはまだ不十分なところがある。

a. 史料利用上の制約があったためでもあろうが、ソ連占領地区や、さらにユダヤ人が最も多いベルリン地区が検討の対象とされていないので、全体像の把握という点では不十分であろう。

b. 米軍占領地区がモデルとして扱われているが、このモデルが英・仏両占領地区に波及していったプロセスや、双方の関係の解明が十分とはいえない。

なお、本論文は全体的にいえば適切な英語で書かれているが、ごく少数ながら表現や表記に関して改善すべき箇所もあるので、公表時にはそれらを修正するのが望ましい。

以上を総合的に勘案して、本論文は博士（文学）早稲田大学の学位に十分に値すると判断する。

2004年6月5日

主任審査委員 早稲田大学文学部教授

大内 宏一

早稲田大学文学部教授

Ph.D. (リズ大学) 松園 伸

東京大学大学院総合文化研究科助教授 Ph.D. (マルブルク大学) 石田 勇治